教育課程編成委員会

記録者　　高橋正行

日時　　令和４年２月２４日(木)　17：00～19：00
場所　　Zoom 会議
出席者　内部委員（敬称略）　工藤佑輝、池田昌央、阿見芳明、境田三由紀、星野丈二、高橋正行
　　外部委員（敬称略）　吉田三晃、吉田昌央、竹野内宏明、永井良幸、石川真樹

【全体会（17：00～17：30)】

１．冒頭挨拶（校長　工藤佑輝）

(1)　2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令がありながらも、学びを止めないために十分な感染対策を踏まえ、年度初めからＩＣＴ教育の導入と活用を積極的に実施し、また検証を重ねた一年だった。

(2)　社会のデジタル化が進むなか、本校の教育現場でもオンデマンド授業を運用し、動画教材や小テストなど、わかりやすい授業と学習の効率化を目指し、学生・生徒たちの学習成果の向上に努めた。

２．令和３年度の活動報告（各学内委員４名より）

(1)　理容科

■ 今年度の教育目標

リラクゼーションコースを、より実践的なシェービング技術（レディースシェービング）の習得の場とするための技術開発

■ 活動内容（議論の内容）

・ 美剃師シェイヴィストの手技と認定フェイシャルの手技を既存のシェービング技術に関連付け、レディースシェービングの技術開発をする。(※延べ 20 時間の授業で計画)
・ 動画教材可能 ➔ スマートフォンでの反復学習を可とする
・ 自撮りしたものをチェックする学習スタイルを導入（記録を保存する）

(2)　美容科

■ 今年度の教育目標

① 選択授業の授業内容をそれぞれのコースをより特化させる
② 学生がより業界に魅力を持つためのキャリア教育を組み立てる

■ 活動内容（議論の内容）

・ ヘアデザインコース
　➔竹野内先生と連携して展開図（＝ダイアグラム）授業の導入
・ トータルビューティコース
　➔引き続き、業界から境先生（ネイル）と石井先生（メイク）による実習授業の実施

(3) ビジネス美容科

■ 今年度の教育目標

① 学生一人一人の気質に合わせ、知識・技術の評価方法を変える

② 現場を想定した応用技術・カウンセリング能力を高める

■ 活動内容（議論の内容）

・ 技術工程審査基準の詳細を記載した評価表を作成し、審査員２名のコメントを記載した評価表に基づいた個々の学生と面談の実施

・ 企業から現役エステティシャンを招聘し、学生によるカウンセリング、技術レベルに対する評価とそれに基づいた指導内容の検討

(4) ビューティアーティスト科

■今年度の教育目標

検定結果やコンテスト入賞など実績を強化させる

■活動内容（議論の内容）

・ 実績強化のため、職員と業界講師の適材適所の配置

・ 検定合格率向上のため、教職員と講師が連携した効果的な指導の実施

【分科会（17：40～19：00)】

１．理容科

池田委員： レディースシェービングの技術開発のため、美剃師シェイヴィスト（レディースシェービング）及び認定フェイシャル（クレンジング・マッサージ・マスク）の両手技と既存のシェービング技術をどのように関連付けるべきか

吉田委員： それら３者を統合したレディースシェービング技術開発にはテキスト作成が先決。このため、次月 17 日に第１回の打ち合わせを実施したい。

この技術開発は、１回限りの授業ではなく、数回に渡る授業を行うことで確実に習得でき、より実践的な学習になると思う。

２．美容科

阿見委員： ヘアデザインコースの学習価値は、お客様のニーズにあった髪型にするために、カット展開図を頭で瞬時にイメージできる力を養うことにあると考える。

竹野内委員： 展開図（ダイアグラム）は、ブロックごとのつながりやフォルムのバランスを明確にするためにも重要です。

展開図がイメージできなければお客様のニーズに合った髪型にすることも不可能美容師にとって、ダイアグラムというカット哲学は生命線である。

３．ビジネス美容科

境田委員： ２年生は実技試験等の機会を得てアウトプットする機会が多いが、１年生はそうした場がなくインプットのみという状況。

学習成果を発表する活動を作っていきたい。

永井委員：　１年生のカリキュラム進行度によって、企業連携の授業内容を学校とともに再検討したい。

学生の実態（実力）に合わせた適切な指導（授業内容）を考えていきたい。

特に１学年の後期に技術発表を設けて、プレゼンテーション能力や伝える力の向上を目的とした授業を提案したい。

来客実習の仕組みを見直し、外部のお客様の対応力を上げることを再検討してみてはいかがか。

３．ビューティアーティスト科

齋藤委員：　合格率が思わしくない検定試験がある。改善していきたい。

石川委員：　高い合格率を挙げた検定試験は講師陣と学校職員との連携が取れており、学生たちの学習態度からも自信を感じとれる。

合格率が低迷している科目においては、学生がどこにつまずき、何が分からないのかを細かくヒアリングをしてみたい。

以上